

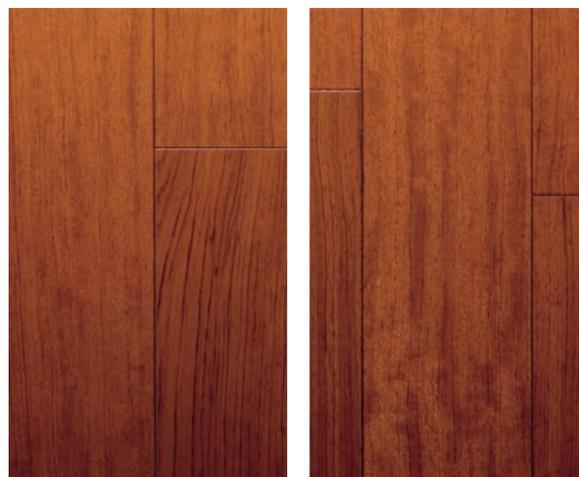
樹一本一本で異なる色合いと柄が、豊かな個性を演出。
ゆらぎ感のある木目と照りが、さらに愉しさを増す。



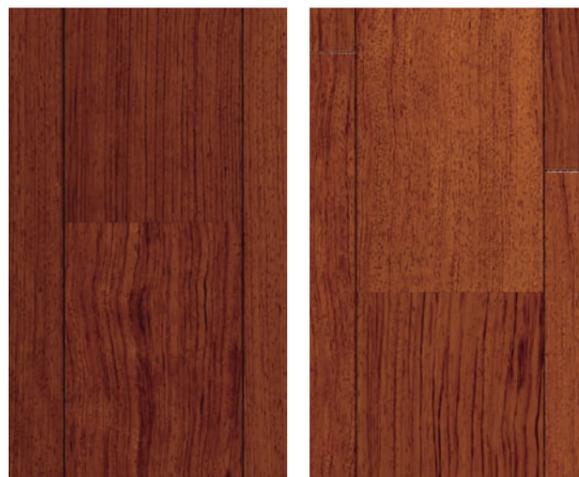
Characters

本物だから現れる数々のキャラクター

照りの表情



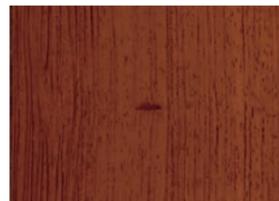
材色の濃淡



ノット



ノット



■ノット
枝の付け根部分が弊に包み込まれてできる(節)。

Bubinga ブビンガ

赤色系のぬくもりで住まいをやさしく演出する。それがライブナチュラル・リミテッド「ブビンガ」の個性。原産地で「神が宿る樹」として大切にされています。また第一級の大径木であり、最大のものでは直径は3メートルに及ぶほど。その太さを活かして、一本の木をくり抜いた世界最大の和太鼓（直径2.73メートル）にもブビンガが使われています。木目は不規則な波状をとらない、赤色系の色合いとマッチした表情は個性があり、独特の違いを愉しむことができます。また耐久性にも優れ、折れや裂けに対しても粘りがあります。心材は赤色もしくは黄褐色で、縞は紫色。年を経るごとに赤味を増し、深まる風合いを愉しむことができます。その材面は、板目、柾目を問わず美しく整っているため、家具をはじめ多彩な室内装飾品として活用され、キャビネットや象嵌（ぞうがん）などにも多く使われています。赤みを帯びたその色調は、住まう人をホッとするような気分で包み込み、安らぎとぬくもりを与えてくれる。周りの家具やインテリアとも、やさしくフィットする。自然が持つ優しさを吹き込んでくれる。それこそが「ブビンガ」の魅力です。

原産地  Place of origin



アフリカ中央部



木目の表情（乱尺デザインの板子）



樹種紹介

世界中の硬質材でブビンガ以上の大径木はないと言われ、直径が2mにもなるので、大径の和太鼓の胴にも使われるようになっています。元来、太鼓といえばケヤキと言われるぐらい昔からケヤキが使用されたようですが、近年では大太鼓が作れる程の太い材が不足し、代用としてブビンガが使用されることが多くなっているとのことです。兵庫県の港町、神戸の繁華街三宮（鯉川交差点）に、樹齢約500年、直径1.8m、長さ11mのブビンガの大木を使用した高さ約7mの「出会いの門」と呼ばれるモニュメントがあります。このモニュメントはやがて朽ちますが、再びアフリカに植林され大きく育ったブビンガがやってくる。そのような平和と国際交流が続くことを夢見て、製作された方々はアフリカに苗を植えにいかれたそうです。この地を多くの人々が訪れ、新たな出会いと物語が生まれることが期待されています。



原木を大割りしたブビンガの木肌



神戸市元町商店街の東口、神戸大丸前の交差点。